

# ナショナル ジオグラフィック 日本版

## 2018年9月号

2018年8月30日（木）発行／定価：1,110円（税込）／発行：日経ナショナル ジオグラフィック社

日経ナショナル ジオグラフィック社(代表：中村尚哉、所在地：東京都港区虎ノ門)は、『ナショナル ジオグラフィック 日本版2018年9月号』を8月30日(木)に発行します。今号は特別企画として『日本列島 すぐそばのいのち』と題し、パート1では、シリーズ 鳥たちの地球から『鳥を旅する』、パート2では、「日経ナショナル ジオグラフィック写真賞2017」でグランプリを受賞した写真家・粕谷徹の『生命をつなぐ身近な海』をお届けします。その他の特集として、『第7回 人類の旅路を歩く「ワハーン回廊を歩く」』『嵐の後のプエルトリコ ハリケーンが残した傷跡』『バスクのクジラ捕り』『新世代の南アジア系米国人』『白人が少数派になる日』の全5本です。

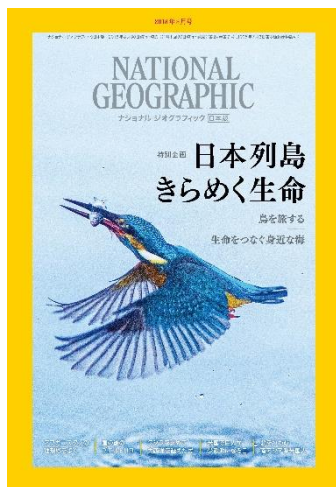
「ナショナル ジオグラフィック」誌は、米国ワシントンD.C.に本部を置く世界最大級の非営利の科学・教育団体ナショナル ジオグラフィック協会が1888年に会員誌として創刊しました。協会の発足以来、1万件以上の研究・調査プロジェクトを支援し、大地・海・空に広がる「世界の地理知識向上」に貢献しています。「ナショナル ジオグラフィック 日本版」は1995年4月に初めての外国語版として創刊されました。現在は、イタリア語、ギリシア語、スペイン語、ドイツ語、フランス語、韓国語などおよそ40の言語で発刊されており、全世界で850万人が購読しています。

【歴史的に有名なナショナル ジオグラフィック協会支援の探検・調査活動は全世界で1万件以上】

「インカの空中都市マチュピチュの発見」「探検家ロバート・ピアリ、初の北極点到達」「アポロ11号の月面着陸」「ジェーン・グドールの野生チンパンジー研究」「植村直己の北極点単独行」「大西洋に沈む豪華客船タイタニック号の発見」ほか。

### ナショナル ジオグラフィック 日本版 2018年9月号

発行日：2018年8月30日（木）／定価：1,110円（税込）／発行元：日経ナショナル ジオグラフィック社／判型：B5変型判（254mm×175mm）・平綴／ページ数：150ページ／通巻：282号／発行人：中村 尚哉／編集長：大塚 茂夫



#### 今月の表紙

茨城県水戸市の水辺で、カワセミが小さな魚を捕まえた。全長17センチほどの鮮やかな青緑色の鳥は、日本で見られる600種を超す野鳥の一つ。

#### 【特別企画：日本列島 すぐそばのいのち】

##### パート1 シリーズ 鳥たちの地球「鳥を旅する」

ユーラシア大陸に沿うように、南北と東西に細長く伸びる日本列島。この国では、渡り鳥を含めて630種ほどの鳥を見ることができ、さまざまな鳥たちに彩られる列島を、一人のガイドとともに旅してみた。

##### パート2 生命をつなぐ身近な海

すぐ近くで人々が暮らす海に、海岸から歩いて潜る。日経ナショナル ジオグラフィック写真賞2017グランプリの写真家・粕谷徹が、生き物たちの懸命な営みを見つめた。

#### <特集>

##### ワハーン回廊を歩く【人類の旅路を歩く 第7回】

山を越え、時代を越える。戦いに傷つてきたアフガニスタンを歩いてみると、理想郷のように平穏な暮らしを送る人々と出会った。

##### 嵐の後のプエルトリコ ハリケーンが残した傷跡

カリブ海の米領プエルトリコを襲ったハリケーン・マリア。電気や水道の復旧が遅れ、住民の暮らしに長い影を落としている。

##### バスクのクジラ捕り

16世紀、バスク人はクジラを求めて大西洋を超えた。

##### 新世代の南アジア系米国人

南アジアから移住し、成功した世代を親にもつ米国人たち。民族に対する古い固定観念をもとせず、異文化を融合させた新しいアイデンティティを掲げて活躍している。

##### 白人が少数派になる日

米国で人口に占める白人の割合が下がってきた。彼らは文化や立場を守っていいのか。なかには将来への不安を抱く人々もいる。

#### <コラム>

- ◆ [日本だけの翼] カヤクグリ
- ◆ PROOF 世界を見る：「手作りロケットを大空へ」
- ◆ EMBARK 未知への一歩：「フジツボで探るクジラの回遊」太古のクジラは、どこまで移動していたのか。/「漁網からスケートボード」/「欧州で減る農場の鳥たち」/「大地の誕生を地図に」
- ◆ EXPLORE 探求するココロ：「チーズの生態系」チーズ作りに欠かせない最近のカビ。その相互作用の研究が、医学に進展をもたらすかもしれない。/「動く山」の調査に挑む/「空から落ちてきた恐怖」